



前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元気21
3階

☎(027) 210-2198

地域の幸せに向かって

「生きる喜びも幸も人とのつながりの中にある」―これ古代の賢人、マルクス・アウレリウスが後世に遺した言葉です。この一言は、前奨連の活動を推進する中で、常に頭をよぎります。

全国に先駆け、前橋市の生涯学習奨励員制度が発足してから、三十九年の歴史が刻まれました。この中で多くの先輩から守り伝えられた多くの教えがあります。

先ずは、地域に誇りと愛着をもたらし活動。そのための、五感を働かせて、地域の歴史文化を見つめ直す努力です。「自分の立つ所を深く掘れば、そこに泉がある」の言葉どおり、そこには、視点を換え地元を、

地元を深く知ろう 人とのつながりを大切に



前奨連 会長 大井 常利

見れば、今までに見過ごしてきた地域の価値が再発見でき、これを今後の地域活動に生かそうという心構えが伝わります。

二つ目は、「それぞれが共に生きよう」という活動です。前奨連の当初からの目標の中に「市民として共に

生きがいある生活を築こう」が掲げられています。コミュニティの基盤となるもの

として、人と人のつながりが挙げられます。生きるとは、人が協力しあうことが基本となります。そこで育まれる好意と友情は、心豊かな地域づくりの大きな力となることと信じます。

最後は「実践すること学ぶ」という目標です。このためには、先ず地域の行事に、足を使って積極的に参加し、自治会などと共に、立ち会うことが挙

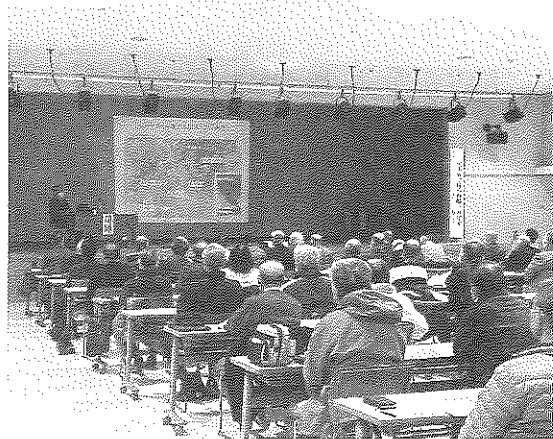
地域の活動を学ぶ詰り

令和六年度 前橋市生涯学習実践研究会

前橋市生涯学習課 井上 乃愛

前橋市を五つのブロックに分け、前橋市生涯学習実践研究会が開催されました。

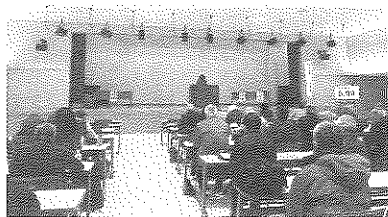
実践研究会は、地域づくりの中心を担う生涯学習奨励員、自治会長、生涯



げられます。ここでも、多くの人と交流し、行事の中にも感動の種を見いだそうという思いが伝わります。「灯々無尽」というロマンある一句があります。一つの灯が人々に次々に

多くの人に点火され、周囲を温かく照らす情景を伝えます。前奨連の伝統の灯が地域の幸せづくりに一歩ずつ結ぶことを祈っています。

学習推進員が一堂に会し、他地域と実践事例の情報交換を行い、今後の地域活動に活かす機会とすることを目的としています。全体で二六七名の参加があり、各地区の課題等を共有し、生涯学習の重要性を再認識する研究会となりました。各自治会で担い手不足が深刻化している中、工夫を凝らして活動している様子が窺えました。アンケートでは、「今後の活動の参考になった。」「奨励員と自治会の連携の重要性を感じた。」等のご意見をいただきました。内容の詳細については、全ブロックの発表をまとめた記録集を作成し、奨励員の皆様に配布する予定です。ぜひご覧ください。



地区だより ⑤

奨励員の
地域活動の変革期

上川淵地区・山王町二丁目奨励員

塩原 義生

上川淵地区では自治会役員と奨励員を対象に年数回の研修会を実施しております。最近三年間の主な研修内容は以下の通りで、幅広く講師を迎え、好評でありました。

令和四年度

①「健康寿命を延ばすには」

②「持つて使おうマイナバーカード」

令和五年度

①「私と家族の相続講座」

②「スマホを学び地域で活かそう」

令和六年度

①「自転車の安全マナー教室」

②「新市長と語る地域が支える学びと愛」

また、前奨連主催の年1回の実践研究会も、与えられたテーマに固執せず、自由な活動を発表しています。

発表テーマは次のとおりです。

令和四年度

「人生を豊かに」

令和五年度

「生涯学習町内旅行」

令和六年度

「東善町生涯学習作品展」

また、任期満了の三年目は、深谷市の渋沢栄一の故郷を視察研修しました。(任期中一回)

地区文化祭では小中学生を対象に、「脳トレ」「輪投げ」「ヨーヨー釣り」などを実施、景品を添えて毎年好評を受けています。

上川淵地区奨励員は、コロナウイルスやインフルエンザの感染など、制約を受ける中で、前記の研修を参考として、地区伝統を考えた企画を合わせて考え活動を心がけています。

「町内たより」については、個人情報報が犯罪に利用される懸念から、減少傾向にあります。毎年元氣21での「生涯学習フェスティバル」は、題材選定に苦慮しており、市民に多くの関心をいただく実施内容に、改善検討をお願い申し上げます。

終わりに、上川淵地区の郷土資料館(開館日 水曜日・土曜日午前10時～午前3時)では、郷土の歴史や古墳、古き農機具等を展示しており、ご来館をお待ちしております。

生涯学習奨励員。いま、わが町で

地元の組織と連携して

三中地区・昭和町二丁目奨励員

岸 陽一

私の住む町では所謂少子高齢化が進み、世帯数も少しずつ減ってきています。長萩会(老人会)では、会員の高齢化や介護施設などへの入所、またご逝去で運営が難しくなっているとも聞きます。育成会も、会員の減少で苦勞しているようです。従って生涯学習の行事も見直す必要があります。さらに、運営の担い手がなかなか見つからないのが現状です。

地域の人を生かした上映会

このような中、令和六年度私が数島地区地域づくり協議会文化活動部会を仰せつかりました。そこで、従来いろいろな組織があり、それぞれが活動をしていましたが、ある程度連携が取れないかと考えました。地域には様々な人材がいっぱいいます。そうした方を紹介し、力になっていただきたいことから生涯学習の

一つとして、地元に住むドキュメンタリー映画監督の飯塚俊夫さんの作品上映会を計画し、実施しました。取り上げた作品は、「陸軍前橋飛行場」と「木と土の王国・三内丸山遺跡」です。会場は第三コミセンを借り、運営には数島地区各町自治会長さん方、文化活動部会員さんにあたっていただきました。当日は四十三名の方に参加をいただきました。もちろん、昭和町二丁目生涯学習活動の一環としても呼びかけました。実施して、「戦後八十年の年に観る意味がある」「またやって欲しい」などの声をいただきました。初めての行事でしたので、課題もいろいろありますが、今後も今ある組織と連携を取りながら、生涯学習活動のねらいとしての、人々のつながりを作っていければと考えています。



わが町「青柳」 地域の伝統芸能と行事の継承

南橋地区・青柳町奨励員

宗 義彦

青柳町は、南橋地区十四町の中でも人口が多い町で北は富士見町に接し、赤城白川、桃ノ木川が流れ、主要道路の国道十七号線、石井県道、前橋西久保線が通る町で、昔から交通の盛んな町として発展してきました。

奨励員として町の行事に加えて、地域の伝統芸能の継承、育成会、老人会との関わりを大切にして活動をしてまいりました。春は、雀神社で昔から小児のハシカの神として盛大な例祭が行われ、地元民からも「青柳の雀様」として信仰篤い神社で、今も四月最後の日曜日に例祭を行っています。夏は、八月に八坂神社の祭りとして祇園祭が行われ、郷土芸能保存会による祇園囃子が奉納され、コロナ以前は三台の山車で町内を巡行していました。現在は公民館で保存会と子供たちによる祇園囃子が披露されています。

赤城白川は地蔵岳西南の沢を源とし、昭和四十年ごろはホタルが飛び交う自然豊かな川でしたが、年々川が荒らされ、ホタルやバツタその他の昆虫・魚・水生生物が姿を消してきました。この自然をもう一度取り戻そうと、平成三十年時の自治会長が「赤城白川を美しくする会」を立ち上げ、草刈り、清掃を中心に作業

を行い、また南橋地区の環境保護団体「南橋の自然観察と環境を守る会」が、子供たちを含めた自然観察、河川掃除を行った結果、近年ホタルが少し戻ってきています。

新しい住宅が増えてきましたが、未来の子供たちの為にも環境保護を図り、自然と共生する暮らしやすい町づくりを目指して頑張っています。

七沼めぐりコースを整備

芳賀地区・小坂子町奨励員

小見 耕一

赤城南麓に位置する小坂子町は、昔から水の確保に苦勞してきました。古くは江戸時代に隣接する富士見地区、宮城地区から用水路を引き町内の白鳥沼に落としていました。白鳥沼の他にも雨水をためるため池を掘り、定期的に普請してきたとの記録があります。

最近では群馬用水が町の東西を横断し、ため池に頼ることもなくなりましたが、町には今でも七つのため池（沼）が残っています。一部の沼は、晩秋の時期に「泥流し」を行い、貯まった土砂を流して保水量を保っています。普段は人気がなく、静かな水鳥などの憩いの場所になっています。

この貴重な農業資産をもっと町民に知ってもらおうと、令和六年度から「七沼めぐり」コースの整備を始めました。コース整備といってもほ

とんどは普通に通れる農道ですが、中にはシノ竹や雑草が生い茂っている場所もあります。昨年五月に平均年齢七十二歳の十人ほどで、誰も通らずシノ、タケ、雑草が繁茂する農道の整備から始めました。

コース付近に国の重要文化財に指定されている鎌倉時代に建立された「鉄造阿弥陀如来像」が作られた場所と伝わる月山があります。これもコースに加えようと考えています。

今のところぐるりと回ると十キロ、標高差二〇〇mのかなり歩きがいのあるコースですが、遠くに富士山を眺めることができる場所もあり、多くの町民が楽しくコースをめぐる日を夢見ています。

三年間を終えて 活動を振り返ると

宮城地区・苗ヶ島町奨励員

長岡 一志

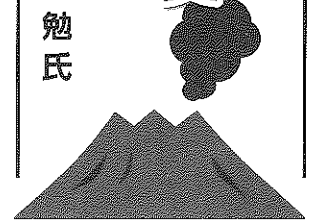
わが苗ヶ島町は、宮城地区の東部に位置し有名な観光施設等は、さくら名所一〇〇選に選ばれている赤城南面千本桜が有ります。静かで暮らしやすい地域です。奨励員の任期三年間が終わろうとしています。活動を振り返って見ると色々な事がありました。最初の一年目は、コロナ禍で過去三年間色々な行事が中止になっていました。が、一年目は、少しずつ行事が出来る様になり自治会と協力をしながら毎

月一回の会議に出席をし、奨励員の活動で花いっぱい運動・ふれあいきいきサロン（さつま芋植え・収穫）・地域交流会（グラントゴルフ）・しめ縄作り・七草がゆ祭り・座禅会と色々な活動を行いました。また、一年目で令和四年度前橋市生涯学習実践研究会「第五ブロック」で生涯学習活動をテーマに宮城地区として発表をしました。あつと言う間に一年目が過ぎた気がします。二年目になってコロナウイルスも終息し色々な行事が実施できる様になり、奨励員の活動にも馴れてきて奨励員としての活動を行い、自治会の行事に参加をし協力して活動することができました。また、二年目より、生涯学習主催の苗ヶ島町文化財の勉強会を開催し、苗ヶ島町は文化財が多くある事を知って奨励員、自治会、育成会の人々と一緒に文化財めぐりを行い、文化財に触れる勉強会を開催する事ができました。三年目になってコロナウイルスにより三年間実施できなかった苗ヶ島町春まつりを四月に開催する事ができました。私は司会という大役を担当し、自治会行事に参加をし、年間行事予定を中止無く実行する事ができ、気が付けば三年間が過ぎようとしています。三年間を振り返ると色々大変でしたが、私にとって大変勉強になりました。この経験を生かして、もう一期奨励員をやってみようと思います。色々な思いを新たに、三年間活動に取り組みたいと思います。

令和六年度前奨連セミナー①

火山灰で探る前橋三万年史
「先祖に学ぶことが今を知る」

講師 早田 勉氏



気の遠くなるような時の流れの中で私達は今生きています。しかし、地球の歴史を考えると最近と言えるかもしれません。

地球環境の形成に大きく寄与してきた火山活動ですが、火山が噴火すると火口から火山灰などがふき出し、降り積もって層を作ります。それが繰り返されることで、地層を形成していくのです。

住民の生活の場の特性を知り、先祖の歩みに学ぶことが地域防災上の基本になるのではないのでしょうか。

利根川は、上越国境を水源とし、三国山脈及び上野火山群の中を南流し、赤城山と榛名山の間を抜けて利根川低地に流れ出しています。赤城山南西麓の前橋北方から伊勢崎東方までの区間には、扇状地が発達しています。

前橋泥流は、前橋礫層の上に堆積する火山灰や粘土などが混じる礫層や、礫混じりの火山灰層などで、前橋台地が現在見られる前橋泥流の堆積地です。前橋台地面上には、微高

地や浅い谷がみられ、下流側を中心に利根川沿いには自然堤防状の微高地があり、この微高地には利根川の古い自然堤防の上に榛名山や天明浅間噴火の泥流が堆積しているとされています。

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、二万年前から人々が生活を始め、前橋の土台ができた旧石器・縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳を始め王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られ、前橋発祥の地とも言われます。中世になると、

「方光」文字瓦は、山王廃寺に関連する遺物で出土例は非常に少ないものです。

以上のようなお話を聞く機会を持ちました。過去に起きたことを知ることが、これから生きる上での備えになるという事です。

(広報委員長 持田みね子)

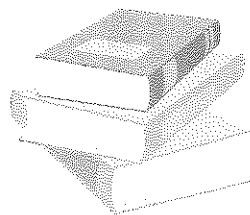
令和六年度前奨連セミナー②
ビブリオバトルを
楽しもう

講師 中山 洋子氏

地域広げるビブリオバトル

二回目のセミナーは、前奨連理事の中山洋子さんによる「ビブリオバトルを楽しもう」でした。まず聞き慣れないタイトルで、参加者は興味津々というところから始まりました。

簡単に言うと本の紹介を通じたコミュニケーションゲームです。しかし、単なる本の紹介の場ではなく、「楽しみながら知識を深め、本を通して人を知る・人を通して本を知る」が理念としてあり、地域住民と本を通



じて他の人と意見交換ができます。地域コミュニケーション活動としてつながり深めるイベントとして、実施してはどうだろうとの提案です。

それぞれの町の生涯学習活動として大いに参考になるセミナーでした。実際にどのように行おうかの模擬ビブリオバトルをルールに則って行いました。

今後進めるにあたっては、ビブリオバトル経験者にレクチャーを受け、図書館や公民館と連携し実践されるとういと思っています。

(広報委員長 持田みね子)

あゆみ (10月～3月)

Ⅱ主要事項

1・29 ■前奨連セミナー▼演題「火山灰で探る前橋三万年史」講師 早田 勉 先生

2・27 ■前奨連セミナー▼演題「ビブリオバトルを楽しもう」講師 中山 洋子 先生

2・28 ■総会委員会▼理事会対応案件

3・25 ■第五回理事会▼令和六年度総括関連▼令和七年度事業計画・予算関連▼令和七年度総会・研修会開催計画

◇奨励員情報 (敬称略)

令和六年度前橋市

社会教育活動功労者感謝状贈呈 宗 義彦 (青柳町奨励員・前奨連理事)